

市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	腎細胞癌に対する Cryoablation 治療における ablation 治療計画アプリの有用性に関する検討
当院の研究責任者	所 属：放射線室 / 放射線科 責任者：吉川 武志 / 穴井 洋
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>腎細胞癌（腎臓にできる代表的ながん）は、近年、検査機器の進歩によって、症状がなくても小さなうちに偶然発見されることが増えています。それに伴い、低侵襲治療の需要が高くなっています。こうした小さな腎臓の腫瘍に対する治療の一つに、凍結療法（Cryoablation）という治療法があります。凍結療法は、皮膚から 1.5mm 程度の細い針を腎臓がんに刺し、針の先端を超低温にすることにより、腎臓がんを凍結して細胞を破壊する治療法です。実際には、CT や MRI で腎臓がんの位置を確認しながら、腰や背中あたりの皮膚から凍結用の針を腎臓がんに入れますが、腎臓がんの大きさ、場所、周りの臓器との位置関係、凍らせる針をどこに置くかなどで効果が大きく変わります。そのため、治療前の綿密なシミュレーションがとても重要になります。</p> <p>当院では、キヤノンメディカルシステムズ社と共同で研究を行っており、今回、同社が開発した凍結療法の手術を支援する治療計画ソフトウェアが導入されました。このソフトウェアは、事前に行われた CT 検査の画像データを用いて、凍結療法で使用する針を刺す角度や深さを事前にシミュレーションすること、また凍らせた時にできる「氷のかたまり（Ice ball）」の広がり方を予測することが可能です。そこで、本研究では、腎細胞癌に対する凍結療法における治療計画ソフトウェアが臨床的に有用であるかについて検討を行います。</p>
調査データの該当期間	2021 年 4 月から 2025 年 8 月まで
本研究の対象及び方法（使用する試料等）	<p>1. 対象</p> <p>2021 年 4 月から 2025 年 8 月までに、当院で腎細胞癌に対する Cryoablation 治療を施行し、治療 2 日後に造影 CT 検査を施行された患者様を対象とします。</p> <p>2. 方法</p> <p>すでに施行された CT 画像（術前 CT 画像、術後 CT 画像）をもとに後ろ</p>

	<p>向きに解析を行います。医療用画像管理システム(PACS)、画像解析アプリケーションに保存されているデータから画像解析（画質評価を含む）を行い、その際に、患者背景(年齢、性別、体重、背景、腎機能など)についても可能な限り評価します。</p> <p>3. 検討項目</p> <p>術中に撮影した CT 画像を用いて ablation 治療計画アプリで作成した仮想凍結範囲と、手技 2 日後の造影 CT 画像の凍結範囲とを長軸、短軸測定、体積測定、視覚評価にて比較、評価します。</p>
試料・情報の 他の機関への提供	あり
個人情報の取り扱い	<p>収集した情報は、名前など患者様を特定できる情報は除いて匿名化いたしますので個人が特定できる情報が外に漏れる可能性はございません。また、研究成果が学会や学術雑誌などで発表される予定ですが、発表内容に個人が特定できる情報は一切含まれません。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
お問い合わせ先	<p>T E L : 0742-24-1251</p> <p>担当者：吉川 武志</p>
備 考	<p>本研究は過去に施行された検査を後ろ向きに検討するのみであり、患者様に新たな検査や費用の負担はありません。また研究の対象となる患者様に対しての謝礼もありません。</p>